

## 令和6年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「地域や関係機関との連携を深め、児童生徒一人ひとりの障がいや発達等の状況に応じた、最も適切な教育の創造」をめざす。  
支援学校として専門的機能を発揮し、教職員と児童生徒及び保護者との信頼とつながりを深めながら、以下のことを中心とした教育を展開する。

- (1) 卒業後を見すえ、小学部・中学部・高等部の一貫性のある教育活動を進める中で、豊かな人間性と社会性を育て、自己実現の達成をめざす。
- (2) 健康の保持・増進に関する習慣や態度を育て、情緒の安定を図り、元気に明るく誠実に生きる態度を養う。
- (3) 安心して安全な教育環境のもと児童生徒の豊かな個性を活かしつつ一人一人の自己肯定感を高める。
- (4) 仲間とつながり、地域の人々とともに生きていく喜びを実感する中で、互いを思いやり、尊重しあう態度を育てる。

## 2 中期的目標

- 1 (キャリア教育) 児童生徒・教員ともに卒業後を見すえ、**自立・自己実現、社会参加**に向けた、小学部・中学部・高等部の連携による**一貫性のある教育活動**を進める。
  - (1) 小学部の段階から、児童生徒が夢や志をもって自己の可能性を広げ、粘り強くチャレンジする姿勢を育むキャリア教育の推進。
  - (2) 学部間の連携と情報共有を深め、小学部・中学部・高等部の連続性のある学びの構築とイノベーションの観点をふまえた教育活動の検証や改善を進めることによる組織の活性化。
  - (3) 関係機関と連携し、生徒一人一人が希望する進路の実現及び就労移行を支援する体制の充実。
  - (4) キャリア教育の教育的意義を正しく理解し、保護者のニーズに対応できる基礎的な知識・技能の構築。
- 2 (教育力向上) 教員としての**資質と教育力の向上**とこれからの時代の変化に対応できる**学校組織力の向上**
  - (1) 教員全員の指導力、授業力の向上を組織的に推進し、児童生徒にとって「魅力的かつ分かりやすい授業」の実施をめざす。
  - (2) 教職員一人ひとりが「高度な専門職として」より確かな人権意識を身に付け、組織として特別支援教育に関する専門性の向上をめざす。
  - (3) 教員間の意思疎通を図り、相互に資質を高めあう同僚性の高い職場環境づくりにより、教職員の組織力の向上を図る。
  - (4) ICT 機器の積極的かつ効果的な活用により、児童・生徒の学びの深化を図ると共に、1人1台端末に関する保護者のニーズを把握し、検討を重ねる。
- 3 (安全安心) 児童生徒一人ひとりの**人権を尊重し、児童生徒・保護者から信頼される安心・安全に過ごせる学校づくり**
  - (1) 学校教育活動全体を通して保健・安全・衛生管理に関する指導・支援の徹底を図り、教職員の見守る力と実行力で、安全で安心な教育環境を確保する。
  - (2) 危機管理体制の充実に向けた防災教育に取り組み「主体的に行動する態度」と「共助」に関する意識の向上。
  - (3) 体罰防止と個人情報管理の適正な管理運用を行う体制の確立。
  - (4) 働き方改革のもと効率の良い業務推進で、教職員全員が心身ともに健康な状況で児童生徒に接する心構えを育成する。
- 4 (地域連携) 支援学校としての**センター的機能の充実**と、児童生徒が地域社会の中で自己肯定感と自己有用感を高め豊かに生きるための**地域連携の推進**
  - (1) 支援学校のセンター的機能の発揮や内容の充実により、校内外ともに教員の専門性の向上を図る。
  - (2) 本校の魅力的な取り組みを積極的に情報発信するなど広報活動の充実により保護者、地域、関係機関との連携を深める。
  - (3) 交流及び共同学習の充実や地域活動への積極的参加で相互理解を深める。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
1 自立・自己実現、社会参加に向けた、一貫性のある教育活動の推進	<p>(1) 児童生徒が夢や志をもって粘り強くチャレンジする姿勢を育むキャリア教育の推進。</p> <p>(2) 学部間の連携と情報共有を深め、連続性のある学びの構築</p> <p>(3) 一人一人が希望する進路の実現及び就労移行を支援する体制の充実。</p> <p>(4) キャリア教育の教育的意義を正しく理解し、保護者のニーズに対応できる基礎的な知識・技能の構築。</p>	<p>(1) ア 「各教科の内容充実」について、共通の認識を周知する イ 「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」のより一層の活用</p> <p>(2) ア 全校教育課程の構築 ・各教科の学部を超えた授業内容の共有 ・3学部の連続性、一貫性を重視した校外行事の実施（R5年度に改訂した行事シラバスに合わせた校外学習や泊行事の実施） ・全学部において、新時間割の運用及び改善点の意見集約による定着。学年進行の授業体制の引き続きの検討</p> <p>(3) ア・中学部、高等部生徒の進路選択における教育活動の充実 高等部：各学年で主体性のある進路学習の実施 中学部：職場体験学習の改善 小中学部：新たな進路学習の検討 ・保護者への進路に関する情報提供の充実 保護者対象の説明会や実習先就労先の見学会実施 イ・定着支援、アフターフォローに向けた取り組みの充実 ・年間を通じて卒業生が相談できる体制を構築する。</p> <p>(4) ア「キャリア教育」の推進に向けた専門性向上 ・基礎的な知識・技能の構築。 ・進路指導への理解推進のための校内研修</p>	<p>(1) ア・「各教科の内容充実」について、並びに「横断的な指導」の検討ができたか。 ・PTを立ち上げ教材の整理と教材の共有化をはかれたか。 イ 「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」についての研修を実施できたか。 ⑩「教職員は子どもの学習状況や努力を適切・公平に評価している」90%以上維持[91%]</p> <p>(2) ア ⑩「学校は保護者のニーズを踏まえた教育活動に取り組んでいる」90%以上維持[90%] ⑩「児童生徒の学びを支援するため、学部間の連携が円滑に行われうまく機能している」70%以上維持[74%]</p> <p>(3) ア・それぞれの学部で「具体的な取り組み計画や内容」の改善や実施に向けた検討が出来たか。 ・説明会や見学会（8ヶ所以上）を実施できたか ・アピリンピック参加に向けて検討、準備ができたか。 イ・旧担任等による進路先訪問（R5卒業生全員）が実施できたか。 ・卒業生対象の相談会（R4、5年度卒業生）を2回実施できたか。 ・ホームページの卒業生向けページの内容を充実させることができたか。（同窓会や行事、相談会など来校の機会についての案内を掲載する）</p> <p>(4) ⑩「学校は子どもの将来の進路や職業について発達段階や実態に応じて適切な指導や助言を行っている」80%以上[74.7%] ア・「福祉サービスの利用について(仮)」「成年後見人制度」等をテーマとした全校研修を2回以上実施できたか ・小・中学部教員が「高等部コース制研修会」へ参加し本校の進路指導等に理解を深めることができたか。 ・中学部、高等部卒業後の進路先やその多様化について学んだか。（教員対象のアンケートを実施しはかる）</p>	
2 教員としての資質と教育力の向上と組織力の向上	<p>(1) 教員全員の指導力、授業力の向上を組織的に推進し、「学び続ける」教職員の育成を行う。</p> <p>(2) 「高度な専門職として」より確かな人権意識を身に付け、専門性の向上をめざす</p> <p>(3) 教員間の意思疎通を図り、相互に資質を高めあう同僚性の高い職場環境づくり</p> <p>(4) ICT機器の積極的かつ効果的な活用した取り組みの推進。</p>	<p>(1) ア 授業力向上のための授業見学や公開授業の充実と工夫と出前授業の実施 イ 校外の研修等の情報共有 ・府内外の研修への積極的に参加と伝達講習の実施徹底。 ・研修成果の「見える化」を検討 ウ 校内研修の充実を図る ・教員を講師としたテーマ研修や事例検討等の「もりぐち支援Lab」の継続実施 ・教員のニーズを聞き取り、見合った校内研修を実施 ・部別研修の回数の検討</p> <p>(2) ア 専門性の向上 ・研修を実施し「児童生徒の実態把握」等の手段についての学びを深める ・実態把握のためのチェックシートを周知し、活用する ・効果的な職員施設見学会のための時期の検討 イ 人権意識の向上 ・「児童生徒の人権を守るためにできること」、「自己肯定感を高める取り組み」についての学習会を実施 ・「安全で安心な学校づくり推進事業(府立学校)」に応募し校内研修などを実施</p> <p>(3) ア 職場におけるハラスメントの防止 イ 教員間のコミュニケーション機会増 ・「首席カフェ」の継続実施に向けた検討 ・研修等を活用したコミュニケーション機会の設定</p> <p>(4) ア ICTの効果的な活用 ・ICT機器やアプリ、クラウドサービスの活用支援方法の研修を実施 イ ICTを活用した教材づくり ・「オンラインストレージ」を活用した教材データの整理 ウ 統合ICTネットワークの円滑な導入</p>	<p>(1) ⑩「子どもは授業が楽しくわかりやすいと言っている」80%以上[78%] ⑩「児童生徒の実態を踏まえ指導内容や指導方法、学習の形態の工夫改善精選を行っている」85%以上維持[92.6%] ア・地域等を対象とした活発な公開授業と(校外から10人以上参加/各回)出前授業が実施できたか。 ⑩「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている」80%以上[78%] イ・「見える化」の検討ができたか。 ⑩「研修・研究に参加した成果を他の教員に伝える機会を設けられている」75%以上維持[85.3%] ウ・「具体的な取り組み計画や内容」の実施等が出来たか。 ⑩「教職員は子どもの学習状況や努力を適切・公平に評価している」90%以上維持[91%] ⑩「校内の研修は教育実践に役立つような内容になっている」75%以上維持[76.8%] (R5 0.8%↑)</p> <p>(2) ⑩「教職員は子どもの障がいについて理解している」90%以上維持[92%] ⑩「初任者等、経験の少ない教員を校内で育成する体制がとれている」60%以上[58%] ア・研修等実施(年2回以上)と講師経験のない教員が講師になり、校内での研修をできたか。 ・チェックシートの周知、活用ができたか。 ・施設見学会の時期の検討ができたか。 イ・児童生徒へ「さん」「くん」での呼称が徹底されたか ・学習会や校内研修をできたか。</p> <p>(3) ア ⑩「教員間におけるセクハラ、パワハラ等の人権侵害事象が発生しないために啓発を行っている」85%以上維持[88.4%] (R5 9.6%↑) イ ⑩「日々の教育活動における問題意識や悩みについて気軽に相談しあえるような職場の人間関係ができています」70%以上維持[75.8%] (R5 10.4%↑) ⑩「教職員の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」70%以上維持[76.8%] (R5 3.0%↓)</p> <p>(4) ア ⑩「学校は子どもに1人1台端末(タブレット PC)等を効果的に活用している。」65%以上[63.6%] ・研修が実施できたか。 イ・教材データの整理ができたか。 ウ PTを立ち上げ、トラブルなく統合ICTネットワークの導入ができたか。</p>	

<p>3 人権を尊重し、児童生徒・保護者から信頼される学校づくり</p>	<p>(1) 保健・安全・衛生管理に関する指導・支援の徹底を図り、安全で安心な教育環境の確保</p> <p>(2) 危機管理体制の充実に向けた防災教育に取り組み</p> <p>(3) 体罰防止と個人情報の適切な管理運用を行う体制の確立。</p> <p>(4) 働き方改革のもと効率の良い業務推進で、教職員全員が心身ともに健康な状況で児童生徒に接する心構えを育成。</p>	<p>(1) ア 校内の防災、緊急時への備えの充実</p> <p>イ 事故防止に向けた研修の充実や施設整備や安全点検の適切で迅速な対応</p> <p>(2) ア 防犯、防災学習の充実に向けた検証と改善</p> <p>イ PTA、関係機関と協働した防災体制の推進</p> <p>(3) ア 人権アクションプランに基づいた行動の継続推進 ・人権研修の実施 ・人権アクションプランの周知徹底</p> <p>イ ・個人情報の取り扱いに対する意識向上</p> <p>(4) ア ワークライフバランスを意識した働き方への意識改革</p>	<p>(1) ア ⑩ 「地震や台風などの場合、児童・生徒にその対応が知らされている」85%以上[84%] ・大規模災害対応 PT を立ち上げ、「大規模災害マニュアル」の見直しと周知が出来たか。 「通学バス緊急対応マニュアル」の周知と活用</p> <p>イ ⑩ 「学校は施設・設備の点検、事故防止に配慮している」70%以上[63.9%]</p> <p>⑩ 施設・設備について日常的に点検や管理が行われている75%以上維持[82.1%] ・年度の初めに、「自主通学生」、「バス誘導體制」、「放課後等デイへの引き渡し体制」の確認を行えたか。 ・見守りソリューションシステムの運用、通学バスコース変更等の対応が迅速にできたか。 ・安全点検や施設整備の実施に関する内容を都度、ブログや文書等で保護者に周知できたか。 ・食物アレルギーの緊急時対応研修が実施できたか。</p> <p>(2) ア ・外部機関と連携し、安全研修が実施できたか（3回以上） ・年度初めに教職員を対象とした「引き渡し訓練」を実施できたか。 ・前期に防災教育を実施できたか。</p> <p>イ ⑩ 「学校は大規模災害に備え迅速かつ適切な対処ができるよう対策の検討と整備を行っている」75%以上維持[79%] ・災害用備蓄品の不足分の計画的な購入と補充に向けた確認ができたか。 ・各保護者と学校が協力して、児童生徒の避難場所、避難所を確認できたか。（緊急時連絡カードの活用）</p> <p>(3) ア ・人権侵害事象ゼロであったか。 ・人権研修を2回実施できたか。 ・年度初めに全校で「さん」「くん」の呼名徹底のためにミニ学習会が開催できたか。</p> <p>イ ・誤配付防止に向けたクラスごとのミニ学習会開催できたか。 ・個人情報の目録の更新の検討を進めることができたか。</p> <p>(4) ア ・定時退勤日（週1回）の徹底実施と施錠時間の遵守が出来たか ・ストレスチェックの「総合健康リスク指数」103以下[103] ・各分掌等で効率の良い業務の推進についての協議と調整ができ、全校での確認ができたか。 ・曜日固定による計画的な会議設定ができたか。 ・週1回のノー会議デイ（NMD）の徹底ができたか。</p>	
<p>4 センター的機能の充実と地域連携の推進</p>	<p>(1) 支援学校のセンター的機能の発揮や内容の充実</p> <p>(2) 本校の魅力的な取り組みを積極的に発信するなど広報活動の充実により保護者、地域、関係機関との連携強化。</p> <p>(3) 交流及び共同学習の充実や地域活動への積極的参加で相互理解の構築。</p>	<p>(1) ア 関係機関との連携強化 ・新就学、進学に向けた市教委との情報共有 ・センター的機能の発揮 地域の学校教員対象の研修会（「守口門真支援教育 Lab」）の開催</p> <p>(2) ア ホームページの充実を図る ・見やすいホームページに向けた検討 ・定期的なブログ UP による教育活動の紹介</p> <p>イ 本校の教育活動に係る広報、理解啓発資料の改訂版の作成</p> <p>(3) ア 近隣校との交流の充実と地域の交流活動への参加</p> <p>イ 地域でのあいさつ・清掃運動実施 ・児童生徒活動、全校集会の検討と見直しによる充実した活動の実施</p>	<p>(1) ア ・就学に向けた市教委との連絡会を時期を早め実施（3回以上） ・守口門真支援教育 Lab の開催（3回） ・守口門真支援教育 Lab へ本校教員の参加率を上げることができたか。（10人以上/各回） ・地域支援整備事業の推進校として円滑に運営を行うことができたか。</p> <p>(2) ア ・保護者の閲覧数増加に向けたブログ掲載の計画を立てられたか。 ⑩ 「学校は HP の学校ブログ等で子どもたちの様子を知る機会を設けている」70%以上維持[75%]</p> <p>イ R7 創立 30 周年式典の PT を実行委員会とし、準備を進めることができたか。</p> <p>(3) ア ・各学部主事や係より交流活動の報告会を行い全校で共有できたか。 保護者へも交流の活動を周知できたか。 ⑩ 「学校は子どもが他の学校の子ともたちと交流する機会を設けている」75%以上維持[75%]</p> <p>⑩ 「近隣の小中高等学校との交流の機会を積極的に設け教育全般に活かしている」75%以上維持[85.3%] ・守口市「春を呼ぶコンサート」へ全校で参加することができたか。</p> <p>イ ・児童生徒活動や全校集会の検討と見直しが出来たか。 ・生徒会による地域でのあいさつ運動が出来たか。 ・清掃運動実施（前期・後期各1回）が出来たか。</p>	